

政務調査研究視察 報告書

日程：平成21年4月13日（月）～4月15日（水）



4月13日
弘前市駅前
「駅前再開発について」



4月14日
青森市駅前再開発ビル
「中核施設“アウガ”について」



4月15日
花巻市役所
「教育委員会の所管について」

視察参加者：田口正夫、山崎泰信、安形光征、梅村順一
吉口二郎、加藤義幸

政務調査研究視察 報告書

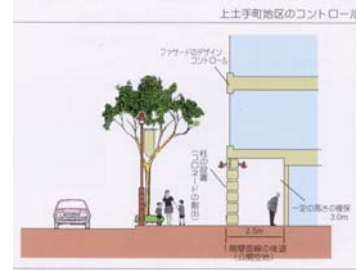
視 察 日	平成21年4月13日(月)	報告者	梅 村 順 一
視 察 内 容	青森県弘前市：駅前再開発について		
視 察 者	田口正夫・山崎泰信・安形光征・梅村順一・吉口二郎・加藤義幸		

愛
知
県
豊
橋
市

1 弘前市の概要 人口：189,043人 世帯数：74,488件

面積：523km²、歳出：670億、財政力指数：0.50。

津軽平野の南部に位置する、400年の歴史を持つ城下町。津軽地方の政治・経済・文化の中心として繁栄。岩木山がその姿を大きく見せ、岩木川が流れ、郊外にはリンゴ園が広がる。



2 弘前駅前整備計画の概要

駅周辺地区は、明治27年の弘前青森間の鉄道開通により急速に市街化が進み、農産物の卸商や倉庫、住宅、旅館、飲食店などが混在して、無秩序な市街化が形成されていた。また、道路や公園等の都市施設の整備の立ち遅れから、防災上の不安や除雪作業に支障が出るようになる。そこで市の表玄関にふさわしい街として商住環境の改善と商業等の活性化を図る為に、昭和43年に「弘前駅前整備計画」を策定。駅前南地区、駅前地区の整備を進め現在、駅前北地区の整備に着手。



北地区の現況写真

3 整備概要と手法

<駅前北地区の現況>弘前駅の北西約200mに位置し、利便性は良いが無秩序な開発により土地利用の低下、居住環境の悪化、商業活動の停滞を招き中心市街地としての発展が阻害されてきた。そこで、公共施設の整備と街中居住の推進を図り他地区との連続性や回遊性を確保して、魅力あるまちづくりを進めた。

<借上都市再生住宅事業>土地区画整理事業を円滑に推進する為、民間の共同住宅を活用して、事業施行区域内にいる居住者の仮住居として賃借するもの。事業終了後は、市営住宅として使用する。集合住宅50戸（1LDK13戸、2LDK37戸）

<借上都市再生住宅事業>土地区画整理事業を円滑に推進する為、民間の共同住宅を活用して、事業施行区域内にいる居住者の仮住居として賃借するもの。事業終了後は、市営住宅として使用する。集合住宅50戸（1LDK13戸、2LDK37戸）

4 住民と行政が協働したまちづくり

<従前のまちづくり>従前の会議は、駅前地区都市改造事業促進協議会の名称で、関係町内会長や推薦者33名による協議会。行政主導の事業案に対して、協議会委員から意見の提示を受けるもので、必ずしも住民の意見が反映されているとは限らない。

<新たなまちづくり協議会>従来の行政主導型の反省を踏まえて、計画段階から積極的に情報を提供し、住民意見を採り入れる。地域住民の中から年齢層及び男女別等の構成を踏まえたメンバーを推薦してもらいワークショップを開催。（ワークショップは、地域意見の決定機関ではないので、責任ある組織体制が必要）住民と行政双方向のコミュニケーションを持ち、お互いの責任のもと協働して「まち」を作り上げていくことが目的である。

豊
橋
市

【感想・岡崎市への反映】

弘前駅周辺整備事業は、主要施設として自由通路や駅舎整備、城東口と中央口の駐車場及び駐輪場などが整備されてきた。自由通路は、平成6年に東側地区町内会より要望が出され平成17年度に事業が完成した。これにより東西市街地の連絡性が向上し、広域的な交通拠点として整備が進められた。駅周辺整備を進める上では、安全で安心できる自由通路の確保が大きな鍵となると感じた。岡崎市においても、自治体の役割を再認識して整備事業に取り組むことが肝心であると痛感した。

政務調査研究視察 報告書

視 察 日	平成21年4月14日 (火)
視 察 内 容	青森市：中核施設「アウガ」について
視 察 者	田口正夫、山崎泰信、安形光征、梅村順一、吉口二郎、加藤義幸

青
森
県
青
森
市

青森市の概要：平成17年4月に浪岡町と合併し、新「青森市」として県内初の30万都市となり、平成18年10月中核市へと移行した。面積824.52km² 人口306,263人 財政力指数 0.29。

夏が短く冬が長い冷涼型の気候に属し、特に冬は積雪量が非常に多く、全域が国の特別豪雪地帯に指定されています。また、青森県の交通・行政・文化の中心都市として都心部を中心に高度な都市機能を集積し、交通の結節点として高い拠点機能を有しています。市街地の後背地には、食糧供給の農地が広がり、とりわけ浪岡地域は全国トップクラスの生産量を誇るリンゴの一大生産地域である。さらに、世界の火祭り「青森ねぶた祭」には、350万人の観光客が訪れ、日本一おいしい「水道水」など、ここにしかない豊かな宝物を有しているまちである。



<毎日の暮らしを彩るフェスティバルシティ「アウガ」>

・「アウガ」の概要について

駅前再開発ビル（通称「AUGA」アウガ）は、青森駅前の再活性化をめざして整備が進められ、青森市が筆頭株主の第3セクターとして、平成13年1月にオープンしました。地下1階、地上9階建てで、地下には市場や飲食店、1～4階にはさまざまな専門店が約50店舗、公的な施設として5～6階は男女共同参画社会の形成を図るための拠点となる「青森市男女共同参画プラザ」、6～9階は「青森市図書館」が整備されており、522台が収容可能な駐車場もあります。

・「アウガ」に対する市民の反応と効果について

市民にとって「アウガ」は、ファッションやカルチャーにあふれた施設として、朝夕の活気をそのまま残した“市場”など、青森の新しい集いの場、出会いの場となっております。また、青森駅周辺のにぎわいの拠点として年間約600万人の来館者を数えるなど、これまで中心市街地に及ぼしてきた影響と今後の活性化に果たす役割の大きさを感じました。

・今後の課題と展望について

「アウガ」を管理・運営する第3セクターの青森駅前再開発ビル株式会社は、現在多額の債務を抱えて厳しい経営状況にあります。アウガについては、中心市街地のにぎわいの拠点であり、アウガ内だけで完結することなく、東北新幹線新青森駅開業効果を最大限に享受できるような対策が喫緊の課題であり、今後建設予定の文化観光交流施設を中心とした市民と訪問客の交流空間等と連携し、にぎわいの相乗効果を発揮し続ける施設でなければなりません。今後も市民共通の財産であるアウガを健全に維持し、より市民に親しまれる施設になるよう取り組み、また、再開発ビル株式会社には経営改善計画の実効性を高める企業努力を強く求め、筆頭株主として徹底した進行管理を行っていくとのことでした。


〔感想・岡崎市への反映〕

昭和 52 年の青森地域近代化実施計画に端を発した、青森駅前地区再開発事業は、29 年の歳月を経て完了を迎えております。青森駅前再開発区は、J R 青森駅前に位置し、中心市街地の一角を占めるなど商業地としての恵まれた立地条件にあります。総事業費約 185 億円の「アウガ」は、市民図書館など公共施設と商業施設からなる複合ビルであり、中心市街地のにぎわい創出に貢献しております。しかし、年間店舗売上額は、当初見込額の 52 億円に対し、初年度実績は、約 23 億円当初計画の約 55% にとどまっており大変厳しい経営状況にあります。

青森市では、アウガの地権者の財産と商環境を守ること、テナント環境を守ること、市民図書館等の市民の財産を守ることを目的に筆頭株主として、再開発ビル株式会社の経営健全化を支援するため、市が金融機関から債権譲渡を受け、これを信託会社との信託契約に基づく有価証券に換えて、青森市地域振興基金の原資の一部を運用することで、多額の長期債務を大幅に圧縮し、安定的に返済できるように支援することとした。また、同社の負担をさらに軽減するため、市の一般会計において直接貸付することとし支援策強化に乗り出しております。

本市として、未来に誇れる都市基盤・生活基盤の整備計画の実現に向けて、学ぶべきところがあると感じました。

政務調査研究視察 報告書

視 察 日	平成21年4月15日（木）	
視 察 内 容	花巻市の「教育委員会の所管」について	
視 察 者	田口正夫、山崎泰信、安形光征、梅村順一、吉口二郎、加藤義幸	
花 巻 市	<p>花巻市は2006年1月に同市と大迫町・石鳥谷町・東和町の1市3町が合併して誕生。面積 908.32 k m² 人口 104,093 人 財政力指数 0.44。</p> <p>岩手県のほぼ中央に位置し、西に奥羽山脈、東には北上高地の山並みが連なる肥沃な北上平野に位置し、季節ごとに変化に富んだ自然風景が広がる美しい町。市西部にある花巻温泉郷は有名で、宮沢賢治・萬鉄五郎出生の地としても知られている。</p> <p><「教育委員会の所管」について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会組織の改編 <p>市長マニフェスト「地域で支える子育てと教育で、人材育成“岩手No.1”のローガンの下に検討される。</p> <p>平成20年度に、生涯学習部門の業務を市長部局に移管、平成21年度からは、保育園・幼稚園の担当課の一元化及び市長部局と教育委員会のあり方等を検討した結果、保育園を教育委員会に移管して、スポーツ振興・芸術文化部門及び所管補助執行施設や教育機関の一部を市長部局に移管し、教育委員会の所管を学校教育・幼児養育・文化財業務に特化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織改編のねらいとしては、 <ol style="list-style-type: none"> ① 将来に向けた人材育成について、重点的な施策展開を図るための体制整備。 ② 就学前の幼児養育担当の一元化による幼児養育と子育て支援対策の充実。 ③ スポーツ振興や芸術文化業務及び補助執行施設等の業務を軽減し、教育委員会が学校教育等「人づくり」部門業務への取り組みを強化できる体制の整備。 <p>があげられている。</p>	
	<p>[感想・岡崎市への反映]</p> <p>「教育委員会の所管」その組織改編については、花巻市の“将来に向けての人材育成”に対する、並々ならぬ決意をうかがうことが出来る。教育委員会業務を、学校教育等だけにする事で人材育成教育に大いに力を注ぐことが出来ることは素晴らしいことだと思う。ただ、幼児養育部門を教育委員会の所管にした事は岡崎市と正反対で、岡崎市は平成21年度より、幼稚園・保育園の所管をこども部に一元化したが、花巻市と岡崎市のどちらがよいかは今後検証していかなければわからない事である。岡崎市においても教育委員会の所管を、学校教育等のみに特化する事は一考の価値があると思った。</p>	